

第 1 2 回総合教育会議 会議録（概要）

日時：令和 5 年 2 月 1 日（水） 午後 4 時 0 0 分～午後 5 時 0 0 分

場所：水俣市役所 3 階 市長会議室

【水俣市総合教育会議出席者】

市長	高岡 利治
教育長	小島 泰治
教育委員	平尾 雅述
教育委員	堀 浄信
教育委員	山田 誠次
教育委員	本田 恵津子

【市長部局：事務局及び関係出席者】

総務課長	岩井 浩昭
スポーツ交流課長	中村 俊彦
総務課 行政管理室	濱野 徹
市長公室政策調整係	荒木 勇貴

【教育委員会：事務局出席者】

教育課長	設楽 聡
教育課 学校教育室	榮永 哲久
教育課 生涯学習室	草野 徹也
教育課 指導主事	森 安広
教育課 学校教育室	田上 朋史
教育課 学校教育室	森山 結

【傍聴者】 0 名

1 開会 （司会進行：総務課 行政管理室 濱野）

2 議事

（1）協議事項

第 1 期水俣市教育振興基本計画（案）について

高岡市長 それでは、早速ですが今回のテーマは、「第 1 期水俣市教育振興基本計画（案）について」となっております。

前回の会議では、本市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策となる教育大綱の見直しについて委員の皆様と協議を行い、今年度から令和7年度までの4年間の教育大綱を定めました。

教育大綱では、『郷土の明日（あす）をつくる心豊かな人づくり』を基本理念とし、「水俣を担い、持続可能な未来を切り拓く人財の育成」、「知・徳・体を育む学校教育の推進」、「水俣の力と誇りを育む社会教育の推進」の3つの決意をもとに教育施策を推進していくこととしております。

今回の協議事項の「教育振興基本計画」は、教育大綱の基本理念に基づき、本市における教育の振興のための基本的な計画を定めるものとなっております。

それでは、協議事項「第1期水俣市教育振興基本計画（案）」について、事務局から説明をお願いします。

※事務局から「第1期水俣市教育振興基本計画（案）」の概要を説明

- ・本計画は、教育基本法第17条第2項の規定に基づき策定した。
- ・計画期間は、令和5年度から令和8年度までの4年間とする。
- ・教育をめぐる情勢や国及び県の教育政策の動向を記載した。
- ・SDGsと教育の関係についても記載した。
- ・本計画の基本理念は、水俣市教育大綱とする。
- ・施策体系は、第6次水俣市総合計画第2期基本計画との整合性を図る形で整理した。
- ・計画期間中の重点目標を4項目設定する。
 - (1) 確かな学力の育成
 - (2) 中学校部活動の地域移行
 - (3) 地域とともにある学校づくり
 - (4) 文化財の保存・活用による地域活性化
- ・その他の各施策区分（合計16項目）については、それぞれ指標を設定の上、取り組むこととする。（総合計画記載内容と同様）
- ・計画の進捗管理・検証は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき実施する。

高岡市長 ただいまの事務局からの説明に対し、御意見、御質問はありませんか。

平尾委員 今回、教育振興基本計画の策定ということで説明いただきましたが、上位計画である第6次水俣市総合計画においても、その基本構想中、目指す将来像に関するページでは、最初に「子どもたち」という言葉が出てきており、読み進めていくと、教育をめぐる様々な変化に対応した計画であると感じています。

水俣市はSDGs未来都市に選定されていますが、SDGsは、環境、社会、経済が大事

だと言われています。様々な考え方はあると思いますが、やはり水俣が活性化しないと教育も活性化しないと思います。

活性化というからには地域の人材が必要であり、そのためには企業が必要であると思います。企業誘致は大変だと思いますが、アミカテラなど環境に配慮した企業もあり、地場企業の活性化は教育の下支えになります。

新聞報道等でも、教育を取り巻く環境は厳しいということを拝見します。変化が著しくなっているのは分かりますが、厳しいと言っているだけではだめで、全国的な問題として児童生徒数の減少、部活動の縮小、PTAも成り手不足、いじめ問題、不登校の対策、教職員の希望者減少などもあるという状況ですが、学校としては学力を高めていくことが基本です。働き方改革で教職員がやるべきことに集中できるように教育の質を高めていく必要があります。そのためには予算も必要で、例えば不登校に関しては、スクールソーシャルワーカーの配置にも配慮が必要かと思います。

中学校部活動の地域移行に関しては、いわゆる「ゆる部活」という体力向上や運動の楽しさを実感するような形態もあるようです。人との交わりも大事にし、生涯スポーツの観点から、勝敗にこだわりすぎず、スポーツの多様化も反映したようなことも考えていいのかなと思います。

高岡市長 私も経済の活性化と教育は切り離してはいけないと思います。1月23日（月）に、TSMC関係で蒲島知事へ要望を行うため、県庁へ行きました。県北地域は、TSMCの進出によりバブルとも言われるような状況もありますが、県南地域はどうかというと、関連企業の誘致はなかなか地理的にも難しいと思われます。では、ソフト面で何か地域活性化につなげられないかと考え、大きく3つの枠として要望させていただきました。

その一つとして、現在、アスカインデックスという半導体製造の企業が水俣市にあります。そこでは、全国から半導体技術を学ぶための研修を受け入れています。高額な半導体製造機器を使っただけの研修は全国的にも珍しいということで、その際は湯の児・湯の鶴温泉に宿泊するという感じで、観光にも結び付けることができます。研修以外の空いた時間で、水俣の自然に親しんでいただくこともできます。

1回の研修で最大50名程度を受け入れたいと希望されていますが、そうすると現在の規模ではやや狭いという状況です。

今、半導体が非常に注目をされている状況下で、水俣市にそのような企業があるということをしつかりと認識しながら、半導体関連の人材育成にもつなげていかなければなりません。それは、水俣高校支援にもつながる話だと考えています。

現在、水俣市の小中学生で水俣高校へ進学するのは5割程度で、つまり半分近くの生徒が水俣高校以外の高校へ進学している状況です。電気関係の学科も生徒を募集しても集まらないようですが、現在、水俣高校内に、アスカインデックスと提携して、半導体技術を学ぶことのできるカリキュラムを創設できないか、県教育委員会へ要望していますので、令和6年

度から募集できるようになればと思います。

そして、台湾の企業ということで、観光にも結び付けたいと考えています。今、経済観光課では、事業承継という、後継者がいない旅館業などをどうするのかという取組を進めています。名前も出したうえで全国に募集をかけ、マッチングツアーも計画していますが、10社ほどに手を挙げていただいているところです。山海館や水天荘に興味を示していただいた企業もありました。

それと、水俣市には、素晴らしい企業があることをもっと子供や保護者の皆さんにも知ってほしいと思います。JNC関連の企業も含めて、規模的には大きくなくても高い技術を持った企業が多数あります。

水俣高校生で就職を希望する生徒は、どうしても大企業への就職に目が向きがちで、保護者さんもブランド名的に大企業でよかったねとなることが多いようです。しかし、実際にそのような企業に就職すると、製造ラインの仕事ばかりだから、3年もすると地元に戻りたいという方も多いと聞きます。であれば、そういう技術を学んで最初から水俣の企業に就職できるように、小中学生には、地元企業のことを知ることができるような、そんな取組を行っていただければと思います。

小島教育長 平尾委員からは、教育を取り巻く様々な課題を御指摘いただきました。今回の教育振興基本計画では、「確かな学力の育成」を始めとした4つの重点目標に取り組みますが、当然、それ以外のいじめや不登校などについても、大切なこととして取り組みます。

中学校部活動の地域移行については、ご存じのとおり令和5年度から令和7年度を改革集中期間として休日の部活動を地域に移行すると示されておりましたが、ややトーンダウンして改革推進期間とされました。

平日と休日で指導者が異なれば混乱が生じると思われたため、12月議会において、平日も含めて移行する旨を答弁しましたが、国が少しトーンダウンしましたので、どうなるのかなと考えておりました。

現在、私が、県内の教育長代表として、県の地域移行準備委員会のメンバーになっておりますが、先日の会議の際に質問を行いました。回答としては、平日を移行してはいけないという決まりはない、そして水俣市と同様に最初から平日も含めて移行することを考えている地域もあるとのことでしたので、12月議会の答弁通り、他地域の情報も参考にしながら、平日も含めての移行に取り組んでいきたいと思っています。

地元企業を小中学生にお知らせする件については、いくつか私にも問い合わせは来ています。青年会議所の方々とお会いした際も、自分たちの仕事を紹介したいとのことでしたので、色々な方法を検討の上、子供たちに紹介することができればと思います。

高岡市長 「ゆる部活」については、スポーツ交流課においても、モルック、スラッグライン、アルティメット、フライングディスクなどのニュースポーツをやっています。気軽に親子で

楽しめるスポーツもありますので、水俣市でそういうのもやっていければと思います。

山田委員 文化財保存活用計画については、水俣市が県内で初めて作成とのことですので、期待しています。市民の皆様が水俣市に自信を持てず、外へと目を向けることがあるかと思いますが、水俣の歴史を正しく伝えることができれば、自分の地域に自信を持つことの下支えにもなると思いますので、この取組はぜひ前に進めてほしいと思います。歴史が私たちに何を教えてくれるのか、私たちは歴史から何を学ぶのか、それらが市民意識の下支えになることを期待しています。

中学校部活動の地域移行については、体育系だけではなく文科系もあります。音楽やコーラス、吹奏楽、書道、それに最近はe-スポーツもそうなのかもしれません。さらに、英語クラブや文化財を生かしたクラブなども考えられますので、この機会に子どもたちへ提供できる体制ができればと思います。

部活動の移行先は、スポーツ交流課が窓口になるのかなと思いますが、小中学生を対象としたクラブについては、文科系も含めて、最初の窓口は教育委員会に置くべきではないかと思います。その後、スポーツについてはスポーツ交流課とつながり、文科系については文化協会とつながるなどの形を考えていけばいいのではないのでしょうか。

教育全体については、人間の人生観や幸福感も育てていくことが大事で、そこはネットやテレビではなく学校で学ぶことができればと思います。価値観が多様化している時代で、何が正しいと示すことは難しい部分がありますが、考え方として生き方の選択肢を示すことはできると思うので、9年間の義務教育期間で対応できればと思います。

堀委員 教育振興基本計画の作成は、非常に大変だったかと思います。私は福祉分野に携わっていますが、子供たちを取り巻く環境は著しく変化しており、日本では1年間に約60万人の人口が減っています。毎年、鳥取県や島根県がなくなるくらいの人口減少です。少子化は8年早く進んでいます。価値観も多様化しており、子供が将来なりたい職業の一番目はユーチューバーだそうです。しかし、保護者としては一番させたくない職業がユーチューバーのようです。ただ、正解は子供が持っています。今回の計画も子供たちがどうしたいのか、どう思っているのかが一番大事だと思います。こども家庭庁が分かりやすい冊子を作成しましたが、何事にも子供を巻き込んで進めていくべきですね。子供自身の声を聞く場を大切にしたいです。

スクラップアンドビルドも行いながら、今後、進捗管理や評価も行われるでしょうけど、そこにも子供たちが入らないと、現実と乖離した形だけの計画が残っていくと思います。

正解はないと思いますが、少なくともそこに携われた子供たちは、間違いなく自分たちが決めたことが反映され、水俣市は考えてくれたから自分たちも当事者として頑張っていこうという気持ちを持てると思います。

ニーズの専門家は当事者であるという言葉もあります。アセスメントを行いながら、これ

から誰がこの水俣を支えていくのか、それは間違いなく子供たちなので、その環境を整える責任が私たち大人にあるのかなと思います。

計画そのものについては、指標などで数値化もされていますので、スクラップアンドビルドの視点も持ちながら進めていただければと思います。

本田委員 私は、子供たちのこれからの環境が気になります。コロナ禍で子供たちの体力が低下する中、部活動の地域移行が進めば、今後ますますの2極化が進むと思います。運動が好きな子は、どこかのクラブに所属すると思いますが、嫌いな子はますます遠ざかっていくのではないのでしょうか。文化活動に目を向けることができればいいですが、そうではない場合もありますし、家庭環境的に送迎も難しい場合もありますので、受け皿の整備は気をつけてやってほしいと思います。教育大綱には、誰一人取り残さずという文言も入っていますので、広く子供たちにとって選択肢があって自由に参加できる環境ができるようお願いしたいです。

文武両道と言いますが、運動をやっている子は学力も伸びるということは科学的にも証明されていますので、ぜひ、学力向上のためにも体を動かすことは大事なんだという観点でお願いしたいです。

それに加え、精神面での話として、ストレス解消のためにも体を動かす場所が必要だと思います。移動距離を気にせず、自分が通う学校で運動ができるという環境づくりもやってほしいです。そこには、先生方が何らかの形でかかわってもいいし、地域の方々でもいいし、お手伝いいただけたらいいので、みんなで集まって何かをする場所が必要だと思います。

先ほど、「ゆる部活」の話が出ましたが、類似したものが第一中学校にあるはずで、部活動などに所属していない子を集めたクラブで、それが今回の地域移行でなくなれば残念なので、そこは残してほしいと思います。

いじめや病気など、様々な事情で登校できない子も増えていますので、子供の自立支援のことも記載していただければと思います。自立支援室を充実させるか、あるいは他の機関との連携など御検討いただければと思います。

平尾委員 今後、この計画を進めていくにあたり、それがいいか悪いかは別として子供たちの意見も反映できる機会があればいいなと思いました。校則についても、子供たちがかかわって決定したのであれば、それが先生方が提案した内容とほぼ同じであったとしても、上手くいくと思います。

地域と学校の関係についても、地域にはお手伝いをしたいという方は多数いらっしゃると思います。退職校長会としても、学力面であれば、学校に入って手伝ってもいいですよという意見もあります。どのような人材を学校が求めているかも具体的に示していただけたらいいのではないのでしょうか。これから少しずつ、地域の学校としての存在感を出して行ってほしいです。

山田委員 中学校部活動の地域移行も、それをやって何になるのか、という声が出てくるような気がしますので、丁寧に進めていく必要があります。勝つことも大事だがそれだけではないし、勉強にしてもそうですが、試験に役立つだけではなく、こういう考え方を学べば面白いよということを伝えられると、人間自体のふくらみもできるし、様々な部分に生かされると思います。

サッカーや野球は、教えたい方々も多数いらっしゃいますが、一見すると役に立ちそうにないものを立ち上げる時には、教育委員会が説明をする方が話が進んでいくと思います。今の子供たちには、なぜそれをやるのかという理由を示さないと難しいと思います。そこでできない良さなど伝えていけたらいいですね。

小島教育長 部活動の件は、令和5年度に協議会を立ち上げます。本日の御意見も参考にさせていただければと思います。文化財の目標に関しては、私も期待していますので、これから作成する計画の中で将来像を明確にして、市民の郷土愛にもつながるように粛々と進めていきます。

学力向上については、エアコンも整備しましたし、一人一台のタブレットも、また、授業支援ソフト及び学習支援ソフトも導入されました。あとは教職員一人一人のがんばり次第かなと思っています。誰一人取り残さない学びの保証としては、タブレットを朝自習、放課後の学習などでいかに有効に使うかにかかっていると思いますので、有効活用に向けて取り組んでいきます。

高岡市長 御意見ありがとうございました。いただいた御意見を踏まえ、この教育振興基本計画につきましては教育委員会で改めて整理をし、この計画を策定していくこととなりますので、よろしくお願いします。

それでは時間がまいりましたので、これをもちまして、第12回水俣市総合教育会議を閉会といたします。皆様と貴重な議論ができましたことに感謝申し上げます。

3 閉会 （総務課行政管理室 濱野）

今回の開催時期については未定です。開催にあたり事前に委員の皆様に通知させていただきます。本日は長時間にわたり、活発な御意見をいただき、ありがとうございました。